

故内藤 實先生を悼む



内藤實前事務局長

去る五月、本会の事務局長であられました内藤實先生が逝去されました。内藤先生と関わりの深かった方々から追悼の言葉が寄せられました。

内藤 實局長へ

元岩手県PTA連合会会長 久慈 竜也

『久慈会長、今年度も引き続き本会の顧問をお願いします。正副会長会議顧問就任案を上程します。』昨年の入梅時の元気な声での内藤先生からの電話でした。

『内藤先生、いつまで私を会長呼びするのですか。私は会長職を辞して既に元職ですから、久慈君、と呼んでほしいし、元職を当会の顧問とすべきではない。本会への協力は吝かではないから』

先生は、私の気性を良くご存知でいらしたので『了解！』と話され受話器を置きました。

平成の市町村合併による当会でのブロック再編に思案なされていたようであり

ようと盛岡駅のコンコースを歩いておりましたら、日本PTA事業『日中友好少年少女の翼』へ参加した本

県中学生を成田から盛岡まで引率されている内藤先生とお会いいたしました。

成田からの日帰りでの出張なのにお疲れの様子も無く、大変お元気でおられました。参加した子どもたちへの慰労の言葉には『岩手

県PTA』の誇りをも感じさせました。私はその内藤先生の言葉に勇気付けられ、『握手』をいたしました。照

れくさそうにする先生の右手は美術に対し独特の表現をされる造詣深い方に相応しい『ゴツツ』としたものでした。

今でも、握手をしたときの感覚は忘れておりません。いや、忘れられない感触となつてしまいました。

この五月の連休で奥様と秋田県内を旅行されていたときの計報はあまりにも突然で未だに信じられないのであります。

岩手の子どもをこよなく愛した 内藤 實先生に衷心より哀悼の真をささげつつ感謝の意いたします



先生の美学

前岩手県PTA連合会会長 藤原由美子

人は、一生を終えたときに真の評価が下されるのだと思います。

「慌てず、騒がず、平静を保ち事に当たる。これが夫の美学でした。」

これまで内藤先生と共に歩んでこられた夫人のことばです。

人は、頑張っている自分をアピールし、努力を認めて欲しいと思うのが常ではないでしょうか。

しかし、辛いこと苦しいことを人に悟られることなく、昔流行った歌のように、「ケセラセラ、なるようになるさ。何のことはないさ。」と、生きてこられた先生の偉大さをあらためて感じています。

ある時私は、目の前のことに頭が一杯になり、心に余裕が無くなりかけていました。

「人は何かに夢中になつて、頭をからっぽにする時間が必要だよ。」と、先生に教えたいただきました。

先生は休日の度と違っていいほど、スキーやキャンプに出かけていたようです。その時間こそが、先生が頭をからっぽにして、美学を貫き通すために必要な時間だったのでしよう。

父親像を教えてくれた先生へ

前盛岡市PTA連合会会長 佐々木秀彦

五月四日、小野寺会長より内藤事務局長が亡くなられましたと言う連絡が入り、思わず「えっ」と言いながら空白の時間があり、信じられない思いでした。

四月十二日に盛岡市PTA連合会の事務所で岡田事務局長の就任挨拶に見えられ、十五年度、十六年度県PTA連の監事、副会長時代の話や平成二十年度の東北大会について懇談した

のが最後でした。役員時代にも連合会についてご指導いただきながら目まぐるしく過ごし、内藤先生も自己流健康法で過ごされていたので、まだまだ大丈夫と思っておりました。内藤先生の話で心に残っているのは「佐々木さん子どもはメンコイヨー」と話されている時の先生時代の話や、学校を訪問した時の話をしている姿が懐かしく

思い出されます。

そのことを思い出させたのが内藤先生のご葬儀での息子さんからの挨拶で、優しい父であり、自分もそのような父親になりたいと思つていと話された事からです。先生としても、父親としても「子どもはメンコイヨー」慈愛に満ちた方であつたことを息子さんを通して改めて知ることができました。父親像の一つを息子さんから私達に伝えご逝去されました内藤先生のご冥福をお祈りいたします。